

Sakura Citizen Collaboration Team News No.14

——市民協働チーム——

2月にさくら市の姉妹都市である埼玉県加須市の若手職員及び女性職員によるプロジェクトチームとのオンライン会議・交流会を実施しました。

市民協働推進チームもあっという間に2年の月日経ち、第1期メンバーで集まる最後のミーティングとなりました。

2/3 加須市とのオンライン会議



▲オンライン会議



▲加須市若手・女性プロジェクトチーム

まずお互いのプロジェクトチームの紹介を行い、次に事業内容・事業成果についてそれぞれ説明を行いました。加須市では6名のプロジェクトチームで活動しており、任期は半年間。

チームで出した案をまとめ、市長・副市長に対しプレゼンテーションを行い、それを最終的に予算化・次年度の具現化を目指しているとのことでした。市長・副市長はこのプレゼンテーションを若手と話せるいい機会として、毎年楽しみにいただいていると話していました。さくら市でも是非同じような活動を出来ればいいと思います。

岡田係長からさくら市の市民協働推進チームの概要・活動を説明しました。加須市からは「加須市では事業化することが全てである一方で、さくら市さんはチームの職員の意識改革に重点を置かれている。ぜひ参考にさせていただきたい」との意見がありました。

オンライン会議を通じて政策提案等の情報交換だけでなく、姉妹都市職員としての絆を深めることが出来ました。本来であれば加須市に行き交流をしたいところでしたが、緊急事態中等の理由から断念しました。落ち着いたら加須市に足を運んでみたいです。

お仕事紹介

都市整備課佐藤大樹さんによる仕事紹介でした。

佐藤さんは市役所に入庁後6年間、ずっと都市整備課という都市整備課のプロ。なくてはならない存在です。

今回は都市整備課の仕事内容、主に都市計画マスタープランに関すること・開発行為に関することについて説明してもらいました。大変勉強になり質疑が多く出ていました。



第8回市民協働推進チームミーティング

お仕事紹介

水道課金田さんによるお仕事紹介でした。浄水場中の構造や設備内容など、水道のしくみについて学ぶことができました。水道の蛇口をひねれば綺麗な水道が出てくるのは、たくさんのひとが縁の下の力持ちとなって動いてくれているおかげなのだと思います。



分科会の発表

チームメンバーがそれぞれやってみたい内容ごとにグループに分かれ活動してきました。そのグループごとの発表を行いました。新型コロナウイルス感染の影響で活動ができなかったグループもありましたが、それぞれ“協働”とはなにかの答えが出てきたのではないかと思います。

地域の資源を活用したまちづくり

市内に誰でも使用できるベンチを置くことで、そこに人が集まり、商店街の活性化につながるのではないかと思います。活動しようと考えました。補助金を使って計10個のベンチを、杉インテリア木工館で市民ボランティアと協働で作成しました。

2日間でたくさんの方に参加していただき、市民の方々とたくさんの交流ができました。新型コロナウイルスの影響で分科会の活動ができなかったグループも加わり、ベンチを作りこれから順次市内に設置していく予定です。



瀧澤家住宅の利活用

「瀧澤家住宅が活用されていなくてもったいない。」という思いから、恒常的に人がくるしくみづくりを構築することを目的に活動を行いました。



瀧澤家住宅を使用して、七五三と結婚式の後撮りの撮影を行いました。モデルは市民から公募し9組の応募があり、2組を撮影しました。さくら写楽会と氏家観光協会と協働して撮影しました。



遊休農地を利用した再開発

さくら市をきれいにしたい、異世代間交流をはかりたいとの思いからキャンプ場や花畑を作りたいと活動してきましたが、新型コロナウイルスのため実現にはいたりませんでした。



異世代間交流だけでもしたいとの思いから「うじいえ自然に親しむ会」の事業の中のオオキンゲイギク抜き取り作業を一緒に行うことで、市内で活躍している方々との交流を深めることができました。



令和3年度からは新メンバーを迎え、第2期市民協働推進チームが発足します。引き続き様々な活動を行いますので、ご期待ください。

【問】 総合政策課市民活躍推進係